

昨年3月11日の昼間、私は毎月山口市内で行われている「いちいちウオーク」のピラを作りながら、テレビを見ていました。15時前、緊急地震速報が流れ、番組が中断されました。地震と津波の酷さに驚きながらも、「いちいちウオーク」へ参加しました。その日はちょうど金曜日だったので、連帯労組・やまぐちの会議があります。「いちいちウオーク」が終わると、そのまま労組の会議へ向かいました。その間、テレビもラジオも聞いていないので、会議に来た組合員から「福島第一原発が大変なことになっている」と聞くまで原発事故を知りませんでした。原発の事故が起きていると聞いても、まさかメルトスルーをするほどの事故だとは思っていませんでした。

翌日は「長島の自然を守る会」主催のスギモク観察会でした。スギモクは上関原発建設計画が目論まれている田の浦にあります。いつもは海底に寝転がっているスギモクが春になると子孫を繁栄させるため、起き上がります。その様子は黄金の畑の様だといいます。前日の地震の影響で瀬戸内海にも津波警報は出ていました。しかし、中止の連絡がないので取りあえず集合場所の上関町公民館に行きました。公民館には「長島の自然を守る会」の代表の高島美登里さんと案内役の新井章吾さんなど数人がいました。昼過ぎには津波警報も解除となり、観察会が行われました。私は船が苦手なので、陸路で田の浦に向かいました。田の浦海岸には相変わらず中国電力が「ここは工事区域です。立ち入らないで下さい」というアナウンスを流していました。海岸には田の浦を守るために来ている顔見知りの女性がいました。約一ヶ月前の2月21日の未明、中国電力は700人もの作業員を田の浦に向かわせました。その時の話しを聞きながら「怖かったですか？」と問うと、彼女は「怖いと思う間もなかった。もう何が何やらわからんうちに取り囲まれた」と言いました。そういう状況の中でも祝島の人や彼女たちが田の浦を埋め立てさせず、守ってくれたのです。海では荒井章吾さんが潜って海藻を採っては船上の人に見せていました。

観察会は2時間ほどで終わりました。帰路の途中、カーラジオから「1号機爆発」と流れてきました。原発の安全神話を信じていたわけではありませんが、まさか爆発するなんて思っていませんでした。とにかく逃げろ！そう願うしかありませんでした。

その後、連日テレビからは原発の危機的状況が流れてきました。しかしそんな状況なのに、「ただちに健康に影響はない」として避難命令を小出しにする政府、東電に腹が立ちました。1999年にJCO臨界事故が起きました。あの時にも避難命令を速やかに出さず、問題となったはずです。JCO臨界事故の教訓が全く活かされなかったのです。

3月11日以降私がやったこと

- テレビの録画や新聞の切り抜きをする。→ JCO 臨界事故の時も裁判資料として「事故当時のテレビ番組の録画」を使おうと、原告側が探していました。しかしなかなか見つからなかったようです。その時の教訓を活かし、今回はずっと録画し続けました。
- 関東の友人・知人に避難を呼びかける。→ 1号機に続き3号機、2号機、4号機と爆発しました。まず、知り合いに電話をし、避難した方がいいのではと話しました。
- ツイッターで「冷静に避難しよう」と呼びかける。→ ツイッターなどでは両極端な情報が流れていました。一方は逃げなくても良い、もう一方はもう日本は終わりだ。といった情報です。避難するにも冷静に判断しなければ、危険だと思い、「冷静になりましょう」というのを入れた上で、情報を流しました。後で「冷静に」と言ってる人は原発推進派だというツイートが流れているのを知り、私も推進派と思われてたのかなと苦笑しました。